

令和3年度
事業報告書

第 6 期

自：令和3年4月 1日

至：令和4年3月31日

一般社団法人まちづくり伊達

1 事業概要

当社は、「伊達地域まちづくり活性化事業」の業務委託を伊達市から受託し、地域の活性化を目指し地域資源を活用した新たなまちづくり事業を官民連携により行ってきた。

当社は、平成29年6月に天王通り商店街の空き店舗を「まちの駅」として認定を受け、地域の交流拠点、憩いの場となっている。また、情報発信や旧伊達公民館跡地の利用、地域の活動団体との連携や商店街との連携協力により下記の4項目を事業の柱として社団目的達成のために活動している。しかしながら、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症が収束しない中であって、拡大防止策を行いながら各種イベントを密にならないように小規模で事業を実施してきた。

- 1 まちなか活性化推進事業
- 2 まちなか原っぱ推進事業
- 3 伊達駅なかプラザ管理運営事業
- 4 まちなか再生・活性化調査研究事業

2 理事会等の開催

(1) 理事会

○第1回（第14回）理事会 令和3年6月10日開催

- 報告第1号 重要事項及び業務報告について
- 議案第1号 令和3年度入会金及び会費について
- 議案第2号 専務理事勤務規程の一部改正について
- 議案第3号 役員報酬について
- 議案第4号 新規会員の承認について
- 議案第5号 理事候補者の選任について
- 議案第6号 監事候補者の選任について
- 議案第7号 令和2年度事業報告の承認について
- 議案第8号 令和2年度収支決算報告の承認について
- 議案第9号 令和3年度通常総会の日時及び場所並びに付議案件について

○第2回（第15回）理事会 令和3年6月25日開催

- 議案第10号 代表理事の選定について
- 議案第11号 専務理事の選定について

○第3回（第16回）理事会 令和4年3月4日開催

- 報告第2号 重要事項及び業務報告について
- 報告第3号 令和4年度伊達市一般会計当初予算について
- 議案第12号 退職金規程の制定について
- 議案第13号 会員規程の一部改正について
- 議案第14号 就業規則の一部改正について
- 議案第15号 職員給与規程の一部改正について
- 議案第16号 特別雇用職員の処遇に関する規程の一部改正について
- 議案第17号 令和4年度まちづくり事業の骨格について

○第4回(第17回)理事会 令和4年3月25日 開催

議案第18号 令和4年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

議案第19号 職員の異動について

(2) 決算監査 令和3年5月27日開催

(3) 通常総会 令和3年6月25日開催

報告第1号 令和2年度事業報告について

報告第2号 令和3年度事業計画及び収支予算について

議案第1号 令和2年度収支決算報告について

議案第2号 令和3年度入会金及び会費について

議案第3号 令和3年度役員報酬について

議案第4号 理事の選任について

議案第5号 監事の選任について

3 まちなか活性化推進事業

(1) 商店街に人の動きをつくる新たなまちづくり事業の実施

①起業者等への支援

まちなかカフェ「ふらっと」を利用する起業希望者へ調理場や客席を提供し、営業活動を通しての課題点などを明らかにしてもらい、起業に導いてきた。

②起業予定者からの相談

手作り雑貨の販売を計画している方1名に対し、空き店舗の紹介や市の支援策を説明し、起業支援を行ったが、資金面等で先に進むことはできなかった。

(2) 「まちの駅」管理及び運営事業(空き店舗活用)

①まちの駅の開設

平成29年5月から天王通り商店街の空き店舗を賃借し、市民が楽しみ、会話し、休憩できる場所、情報の発信を行う場を開設し、市民交流の拠点となっている。ここでは、卓球台等を設置し親子や子どもたちが放課後の居場所として友達同士で利用している。特に、春休みや夏休み等の長期休業時に子どもたちの利用が特に多くなっている。なお、平成29年6月18日に全国まちの駅連絡協議会の認定を得た。

②まちなか図書館の設置

市立図書館の「伊達文庫」や、市民から提供を受けた書籍やコミック本などを蔵書して、市民の希望により貸し出しをしている。

③地域団体への会議集会場所として提供

地域の町内会や高齢者団体、福祉団体、農業者関係団体などに役員会や総会、会議等の利用に無料で貸出しを行った。

④まちの駅としての情報発信

まちの駅の情報基地として各種の情報収集に努め、行政情報や各種フリーペーパー、民間情報誌等を備えて提供している。また、「まちの駅 まちづくり伊達」の事業内容を広く市民に知っていただくために、伊達町中央商店会が発行する感謝市チラシの裏面を活用した、イベント情報に合わせて発信している。

⑤ホームページ等による情報発信

ホームページ (<https://machidukuridate.com/>) により、イベント情報、まちなか情報などを発信している。また、地域内の関連団体等の紹介も掲載している。

⑥ハンドメイドレンタルボックスの設置

「ハンドメイドレンタルボックス」を設置し、市内のハンドメイド制作者 9 名の作品を展示と委託販売をしている。出展者からは、レンタルボックスの使用料と 10%の販売手数料を頂戴している。



⑦おすそ分け市場の開設

朝採り新鮮野菜等を地域の皆様に提供し、商店街に足を運んで頂くような仕組みで行っていて、新鮮野菜を求め来所することも多くなっている。出荷者からは、10%の販売手数料を頂戴している。



⑧手作りパンの委託販売

前出の起業支援をしている手づくりパン店のパンをまちなかの駅で委託販売している。納品日は、火曜日と土曜日で、食パンやフルーツブレッド、あんぱん、焼き菓子等を主に販売している。委託者からは、5%の販売手数料を頂戴している。

⑨手づくりマスクの製作と販売

新型コロナウイルス感染症防止対策としてのマスクについて、ハンドメイドレンタルの出品者などによる手づくりマスクを販売している。また、地域内の事業所で製造された「伊達マスク」を 1 枚 500 円で販売してきたが、不織布マスクの着用を推奨していることもあり、10 月から 300 円に改定して販売した。これに合わせて事業所製造の委託販売品の取り扱いは終了した。

⑩まちなかの駅 2 階スペースの活用

まちなかの駅 2 階の住居スペースを活用し Life for Mothers に無償で事務所として賃貸した。LfM は、子育てママのフリースペースの運営や小学生を対象にした放課後まなびの広場の事業を展開した。また、LfM の独自事業として、ヨガやベビーマッサージ、不登校の子を持つ親のためのお話会“ココカラ”事業などを行い、子育てママなどが事業参加した。

⑪公的事業への参画と協力推進

伊達市の新型コロナウイルス対策事業の「プレミアム 4 じもと応援券」の販売所及び取扱店となり、地域経済の活性化に寄与した。

じもと応援券の販売を 7 月 27 日～8 月 10 日まで行い、1,974 セットを販売した。また、第 2 弾は 9 月 6 日～10 日までの販売も協力し、取扱件数 2,179 セットとなった。

(3) 商店街イベント事業の実施と支援

①商店街感謝市事業の支援

- ・伊達町中央商店会が偶数月 15 日に行う感謝市について、中央商店会発行の広告チラシにまちなかの駅の紹介やイベント開催の記事を掲載し感謝市を盛り上げた。
- ・スタンプラリーを 6 月の感謝市から 9 店舗で取り組みを行い、参加店が徐々に増

え3月には11店舗で実施した。お買物券の交付枚数は10ヶ月で513枚となり、次回来店での売上増に寄与した。

②端午の節句事業の実施(5月5日)

各店舗による柏餅プレゼントによる集客事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を取りながら12店舗で実施した。また、まちの駅で伊達認定こども園と伏黒幼稚園の園児による「こいのぼり塗り絵」を5月5日から15日までの期間展示し、商店街に足を運ぶ仕掛けづくりを行った。

③年末年始の天王初市事業の実施と支援(1月2~3日)

天王通り商店街の年末年始の売り出し事業に参画し支援した。この事業は、天王通り商店街の参加店9店舗において、12月15日から年末売り出しを始め、買い物金額に応じてサービス券5,535枚を配布した。初市の1月2日、3日は、サービス券3枚で1回の抽選を行い、参加店で利用できるお買物券などを提供した。参加店からの協賛品を詰めた福袋を20個販売し、今年度の市民の健幸と繁栄を期した。



④伊達町マルシェうまいものフェアの実施

伊達町マルシェ実行委員会と伊達町中央商店会、当社団が共催で“伊達町マルシェうまいものフェア

“を12月5日にイベント広場で開催した。当日は、9店舗の特製弁当の販売と駅なかプラザ直売所の新鮮野菜の販売やリンゴ詰め放題、お楽しみ抽選会、綿あめ作りなどのイベントもあり、大勢のお客さんの来場で弁当は30分程度で完売する盛況だった。

また、商店街の各店舗を巡るスタンプラリーには10店舗が加盟し、お客さんに買物券を20枚交付した。

⑤イルミネーションの点灯

伊達町マルシェ実行委員会と伊達町中央商店会、当社団が共催で実施してきた、まちなかイベント広場と伊達駅前へのイルミネーション点灯を12月5日から令和4年1月末まで実施した。また、まちの駅のショーウィンドウにもツリーの飾り付けを行い、毎日24時まで点灯し、天王通りの賑わいづくりに貢献した。伊達地域の冬の名物として、多くの親子連れなどが訪れていた。



⑥ひな祭り事業の実施(3月3日)

この事業は、商店街の事業参加11店舗が特販品を用意するとともに、お客様に日頃の感謝を込めて、桜餅や桃の切り花をプレゼントしました。また、商店街の各店舗を巡るスタンプラリーには11店舗が加盟し、お客さんに買物券を61枚交付した。

まちの駅には、つるし雛を地域の愛好家の方から借用し2月15日~3月5日にかけて展示し、多くの親子連れやお孫さんの作品を見る方々や地域の方が来場した。



⑦商店街の除雪作業の実施

降雪時に商店街における買い物客の利便性向上のため、商店街前歩道の除雪作業を実施した。また、イベント広場等の商店街の共同駐車場の除雪を福島信用金庫伊達支店の方々と行い、商店街利用者の利便に供した。

(4) 商店の新たな試み事業

①真空包装機利用による商品販売事業

商店街の個店において試験的に真空包装機利用による惣菜を販売している。商品は、家庭料理の惣菜商品、その内容の工夫や手頃な量と価格の設定、簡単に湯煎して食べられることなどから高齢者に好評である。

②手打ちそば打ち体験教室

まちの駅とまちなかカフェ宣伝のため、十割手打ちそばの店主による手打ちそば打ち体験教室を2回実施した。

③パン教室

子育て中のママさんなどを対象として、麦々工房の店主を講師にあんぱんやちぎりパンなど3回シリーズで実施した。フライパンで簡単に作ることができて4人の受講生からは好評でした。



④「天王あげまん」の企画・販売

商店街の活性化や地域伝統文化の情報発信を目指し、菓子店と共同で包装や販売方法や個数などを協議し、「天王あげまん」の企画販売をした。これは、天王様の名称で5個入りのコンパクトな袋売りなどの工夫をして、まちの駅限定品として月曜日、木曜日に入荷して限定販売している

4 まちなか原っぱ事業推進事業

(1) (仮称) ママノマ運営準備業務

①運営体制等の検討

運営体制・運営方法等について今までの経過等も踏まえて検討を重ねてきた。近隣での先進事例が宮城県利府町にあったので、1月31日に「まち・ひと・創造ステーション“tsumiki”」を視察した。利府町では地域の愛着心の低下や駅前の賑やかさの創造等の課題を解決するために、平成28年度から市民参加のワークショップを開催した。若者の感性を尊重してカフェを中心とした空間で、用途に合わせてコミュニケーションが取れる空間とすることや、起業のファーストステップとした手作り作家さんの商品販売やアドバイスができる体制整備を行うこと。施設づくりではフレキシブルを重視した整備（コンテナハウスの使用）とすることを決めた。

建設費用は約2,600万円で、コピー機や机等の備品約800万円であった。建物面積131㎡、運営業務委託費は約2,000万円（開設時からほぼ同額）となっている。

運営は、開館時間が9時30分から17時30分まで（水・金は21時まで）、通常は常勤者2人だが、非常勤4人、学生アルバイト2人がかかわっている。普段の

運営は2人体制になっている。

利用者はH30年度をピークに減少傾向にある。1日あたりの利用別割合は3時間未満の施設利用（ビジネス客も結構いる）が半数、委託品購入が2割、起業等の相談者も2割程度いるとのこと。イオンモールの増床後の来店者数はあまり変化がない。

今後当社も、市役所やカフェ運営者等との協議を重ねて、伊達地域にあった運営体制を決定していくこととする。

②運営方法等の検討

確定ではないが運営を市から当社が受ける方向で進んでいる。現在のまちカフェふらっとの手打ちそばは、ママノマでは営業しないと結論をいただいている。カフェ事業者は毎日営業することはできず、現在と同様に金曜日土曜日の営業で毎月第1金土は休業とする方向性である。今後は、体制及び方法も踏まえてここに最適なものを考えていくことになる。

③伊達公民館跡地利用検討委員会への参画

令和3年5月10日に長岡町内会他2団体から市長と議会に要望書・陳情書が提出された。6月定例会議で趣旨採択となり付帯決議「伊達公民館跡地利用に関しては、地元町内会をはじめ各団体の要望・意見を取り入れて防災機能を備えた計画を進めることを強く要望する。」が付いた。そのため市は、11月24日に「伊達公民館跡地利活用検討委員会」を設置し、当社から山田代表理事と谷米専務理事が委員として参画した。

市は、「地域の理解が得られるまでは、事業は進めない。」としている。検討するにあたり市から示された条件は、①事業費限度6,000万円 ②陳情にあった集会所は建設できない ③新伊達小に防災機能と備蓄倉庫を整備するので近隣に同様の施設を造るのは難しい の3点が示された。

第2回検討委員会では、ゼロベースで施設建設の有無や、どのような施設・機能が望ましいのか議論された。運営者が具体的にいいのか、製菓室の必要性等について議論され、製菓室をなくしてオープンスペースを拡充することや、トイレ等についても今後検討していくことで、今回はイメージ図を基に検討することとなった。

第3回検討委員会では、防災備蓄倉庫や事務室が独立して配置され、製菓室がなくなりキッチン脇に独立した部屋が設けられ（冷蔵庫や食材を置く等）、多目的トイレ、男女兼用トイレ1か所、テラス席は奥行き1間の図面が提示され、委員からは多くの意見が出され、まだまだ意見の集約にはつながらなかった。

(2) まちなかカフェ「ふらっと」の運営と事業者支援

①まちなかカフェ「ふらっと」で営業する起業希望者の支援

まちなかカフェ「ふらっと」では、社団は場所や機材を貸し、経営は参加者の責任で行うことで営業している。営業日が限定されていることで来店者が限定され、厳しい営業状況が続いている。

《“ふらっと”の営業状況》

○水曜日・木曜日 十割手打ちそば

○金曜日・土曜日 サンドウィッチ・スイーツ

※毎月第一金土は休業

(3) まちなか原っぱ広場管理運營業務

①敷地を芝生化する

旧伊達公民館跡を芝生化し子どもの遊びの場を提供していて、日常的に子ども同士や家族など多数の方が場を利用している。芝生の管理のために雑草除去作業をシルバー人材センターに委託を行った。

②仮設トイレ等の設置

原っぱに手洗い場や仮設トイレをレンタルして設置し、原っぱ利用者の利便に供している。トイレは、防犯上の観点から午前8時半頃から夕方6時過ぎまでを開放としている。

③遊具置場の新設で利便性向上

子ども同士や家族連れが芝生広場で自由に遊ぶことができるように、バドミントンセットやボール等の簡単な遊具を収納する物置をトイレ脇に設置した。

5 伊達駅なかプラザ管理運営事業

(1) JR伊達駅「駅なかプラザ」の管理運営

駅前ロータリーの整備が完成して奇麗になり、また、今後大型商業施設のオープンした後は多くの乗降客の利用が予想され、伊達市の玄関口そして情報発信拠点として、JR伊達駅構内の駅なかプラザの管理運営を伊達市から受託した。駅なかプラザ直売所代表と管理運営に関する契約を取り交わし、負担区分等を明確にして行っている。

(2) コワーキングスペース・情報発信

来訪者のためのコワーキングスペースを昨年度伊達市が設置し、市長が出席して4月28日に開所式を行った。観光案内はじめ地元製品の紹介や販売など市の情報発信を伊達市玄関口としての役割を果たしている。年間利用者数は、ワークボックス利用者12名、観光案内25名、地域特産品の案内80名、地域情報の案内156名となった。



6 まちなか再生・活性化調査研究事業

(1) 伊達地域のまちなか再生、活性化に関するまちづくり事業

①だて桜回遊事業2021の実施

地域の桜名所を徒歩で巡り健幸な生活を目指し、まちの再発見をする事業で82名の参加があった。参加者には、伊達地域のサクラスタンプ商品券を進呈した。

②桜回遊フォトコンテストの実施

だて桜回遊事業 2021 と並行して伊達地域の桜の名所フォトコンテストを実施した。

4 月末日まで募集し、11 点の応募があり、審査の結果、最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点を決定した。応募作品を 6 月 15 日～30 日までの期間、まちの駅で展示を行い、多くの市民が鑑賞に訪れた。



③だて de フォトコンの実施

東北中央自動車道の全線開通や堂ノ内地区土地区画整理事業の着工など、地域の変わりゆく風景の「一コマ」を撮影し語り継ぐため「だて de フォトコン」を実施した。

今の伊達地域を広く市民に広める事業として、伊達地域の市民に周知したところ令和 4 年 1 月末日までに 1 名の応募があった。

(2) 伊達市減塩推進応援店に登録

伊達市が進めている減塩運動に参加し「伊達市減塩推進応援店」として、生活習慣病の予防と健康寿命を延ばすために、野菜を食べることの重要性を記したチラシやのぼりを掲げている。毎月 17 日の減塩の日にはポケットティッシュなどを配布して運動を推進した。

(3) 大型商業施設と地域との連携及び商店街の住み分けの検討

①東北中央自動車道（復興支援道路）の完成見学会の実施

4 月 24 日全線開通前の 4 月 15 日に、午前と午後に分けて 2 台のバスで 97 名の参加者が、伊達中央インターから入り、途中、大柳大橋、富沢トンネル、伊達大橋の 3 か所でバスから下車して国土交通省職員から説明を受けた。



②大型商業施設の地域貢献策や商店街との連携策の調査検討

2024 年度に開店予定の大型商業施設の建設のために、土地区画整理事業が現在進行している。

地元商店街との共存や支援策等様々な方策を検討するため、市役所や関係機関と協議を行っているが、実情を学ぶために先進地視察等を行った。4 月 22 日にイオンモール天童及びイオンモール利府を視察し、イオンの地域貢献策やモール内への出店状況や販売状況を確認した。なお、天童商工会議所へはコロナ過での対面が制限されていたためメールと電話により商工会議所の対応策等について教示を得た。

伊達市が計画しているモール内へのアンテナショップ出店について、市役所は広域連携の観点で関係する自治体との協議を進めている。当社団は市役所からの求めにより、9月9日から30日にかけて、各市町の観光物産協会や民間企業へ伊達市の考え方等について説明を行い、事業への参加協力について理解を求めた。

